

■第1回策定委員会の委員発言概要

平成29年7月4日
第2回 策定委員会
資料1

発言概要

「育む」の捉え方

- 「育む」はつくることに加え、既存のものを大事にすることと位置づけられる。(中村委員)
- まちを「育む」上で、ストックの質的向上、市民のアクセシビリティが重要と考えている。一方で、市街化区域内には農地が多く、つくろうと思えばつくれてしまう環境にある。こうした農地や空きスペースを、どう活用し、未来の茅ヶ崎市の資源とするかが重要となる。(加藤委員)
- これまでのベッタウンではない**住宅都市のクオリティー**として、健康面や、オフタイムの過ごし方といった要素を盛り込んでいくことが求められる。世帯数の予測や、年齢別人口の予測も次回示して欲しい。(加藤委員)
- 30代の転出入が現在は多いが、さらに将来を見据えると、今の小中学生が、成長しても市に居住することを選択するような、定住を促進する視点が重要となるのではないか。(加藤委員)
- 「育む」は良い考え方だが、これからブレークダウンして市民に説明する際には、「育む」とは、つくることを放棄することではなく、「量的拡大はしない・つくることそのものをゴールとしない」という主旨が伝わるようにすべき。(岡村委員)
- 今後議論するにあたり、人口(流動)や土地利用について近隣市との比較も交えて行った方が良い。(海津委員)
- 「育む」は良いキャッチだが、現状あるものを使う視点が重要であり、まちから協議会の取組が重要となる。新規のものを取り上げたいが、現実には可能かを掘り下げると見えてくる。(梅田委員)
- 市民満足度を広範に高める観点から「育む」としたものと理解した。基礎調査が重要と感じた。(熊澤委員)

「らしさ」の捉え方(考え方)

- らしさは、どこまで共有できるかが課題となり、共有の幅を広げることが「育む」につながっていく。(中村委員)
- らしさや、住みたい・住み続けたいまちは、言葉は良いが、中身の吟味が重要となる。何を伸ばし、何を守るか、どのように弱みを克服するかといった戦略の検討が重要となる。(中村委員)
- 茅ヶ崎の魅力ある「茅ヶ崎らしさ」については、抽象化されたままでも今まではやってこられたが、再検討すべき時代に入った。(加藤委員)
- 住宅都市＝「ただ住むだけのベッタウン」ではなく、健康やオフタイムやリタイア後の生活が充実した**クオリティーの高い暮らし**ができる都市とすべき。(加藤委員)
- 茅ヶ崎市は、全国的にも恵まれた環境にあり、勝ち組と捉えている。市民参加をベースとしたらしさの追求には賛成だが、地域毎の市民参加を充実し、地域での議論を元に、ボトムアップで積み上げて全体の議論へと展開してはどうか。(一ノ瀬委員)
- 茅ヶ崎らしさは、人それぞれで別々の認識をしており、一人歩きしている。(梅田委員)
- 埼玉から移転してきたが、茅ヶ崎市は、ブランドイメージから、住宅の賃貸料が高めと言われた。施策の検証資料より、進んでいる施策と進んでいない施策が混在しているが、ソフト面の新しい視点があると良いのではないかと。らしさの明確化にもつながるのではないかと。(小峰委員)
- らしさには違和感を覚えている。らしさにとらわれすぎると、プランの検討方向を間違えてしまうのではないかと懸念している。(伊藤委員)

市民会議の進め方、テーマ等

- 過ごし方を聞くことは良い試みであると思った。やる必要があつてやることではなく、やる必要がない、やらなくても良いのにやっていることが抽出できる。(岡村委員)
- らしさを議論のテーマとすると難しくなってしまうのではないかと。住みよさの評価や、**居住地選択の要素**として、教育が最大のテーマとなり(学区により住居を選択する傾向が強い)、買い物(地元の商店街の使い方や評価)、病院の利便性も挙げられる。(一ノ瀬委員)
- 通学者や市で働いている人にその理由を聞くことや、観光客が来る理由を把握することも考えられる。(海津委員)
- 2日目の討議テーマについて、住み心地の構成要素が、景観・みどり、交通・道路、防犯・防災の3つで良いか疑問がある。(小峰委員)

その他

地域毎の特性や課題

- 景観計画等で、地域別に議論を積み重ねるのであれば、活用できる検討結果について都市マスタープランへ反映すれば良いのではないかと。(加藤委員)
- 市内の南北での格差が大きいと感じており、エリア別の現状(データ分析)と将来像の検討が必要ではないかと。(海津委員)
- 東海道線や国道1号で南北が分断されている。市内の人の動きを分析できないかと。(後藤委員)

経済や産業への対応

- 産業の関わりは重要である。「育む」は主に市民を見ているが、産業面でのアクターの関わりも重要と考えている。(商業地域、工業地域をどうしていくのか)(一ノ瀬委員)
- 経済や産業についての記述が薄い感があるが、マスタープランの対象外との位置づけか。商業や商店街、駅周辺の活性化が重要と考えている。地域にとって、地場のスーパーや個店が重要である。茅ヶ崎市の商店のテナント料金は安く、起業家の進出も多い。(亀井委員)

分野別・地域別の取組方針について

- 分野別について7つの方針が良いか、また地域区分について7地区で良いのか十分な議論が必要である。組み直しが必要であると考えている。(梅田委員)